

## 環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業

～滋賀の大学生たちが取り組む、気候変動対策のための実践的行動～

近年、琵琶湖に異変が起きています。湖の表層と深層の水が混ざりあう全層循環、いわゆる「びわ湖の深呼吸」と呼ばれる現象が2019年、2020年と2年連続して観測できませんでした。湖底の酸素濃度が低下し、底生動物の生存が脅かされ、ひいては琵琶湖の生態系に大きな影響を及ぼすことが危惧されています。その主な原因は、地球温暖化などの影響と考えられています。

このような危機を前にして、豊かな琵琶湖を守るために、滋賀の大学生にできる温暖化対策の取り組みを、学生自らが主体的に考え行動しました。

### 若者の力で、若者の行動変容を巻き起こす！

琵琶湖の周囲を取り囲むように立地する多くの大学。そこに通う学生たちが、琵琶湖に思いをはせながら、滋賀県の目標である、2050年CO<sub>2</sub>ネットゼロに向けたムーブメントを起こすため、「行動についてまなび、多様な人とながり、県民へとひろがる」ことを目的として、令和3年度に取り組みをスタートさせました。

環境省の調査では、20代は環境への意識が最も低いという結果が出ており、滋賀県も同様です。こうしたことから、大学生を中心に、滋賀の若者に地球温暖化問題を「自分ごと」と捉え、地球にやさしい、琵琶湖にやさしい行動を自然ととれるようになること、すなわち若者の行動変容を巻き起こすため、大学生が自ら考え、企画し、活動することで、若者の主体的で積極的な取り組みを誘発し、温暖化防止センターはそのサポートに努めるかたちで、この取り組みを始めました。

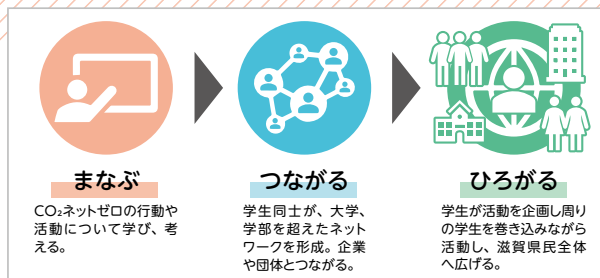
令和3年度は主に「まなぶ」、「つながる」をターゲットに、コロナ禍の中、オンラインも活用しながら、6回にわたるワーキングを開催しました。



キャンパスSDGs大会  
連携事業でのようす



ラコリーナでの  
ディスカッション後の発表



まなぶ	第1回	「金融の力で脱炭素社会を支える」 協力企業：株式会社滋賀銀行
	第2回	「技術の力で脱炭素に取り組む」 協力企業：パナソニック株式会社アプライアンス社
	第3回	「再生可能エネルギーの推進で脱炭素に取り組む」 協力企業：京セラ株式会社
つながる	第4回	「研究者と交流し、地球温暖化を考える」 協力機関：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	第5回	「県内外で脱炭素化に取り組む若者と交流する」 連携事業：キャンパスSDGs大会(滋賀県立大学) 交流先：鳥取環境大学、千葉商科大学、千葉エコ・エネルギー(株)
	第6回	「自分たちの未来を考え、明日から取り組む第一歩を発表する」 協力企業：たねや ラコリーナ近江八幡

### 令和4年度のテーマは大学における「マイボトル」の普及！

昨年度の議論を受けて、令和4年度はペットボトルの削減がテーマ。学生自身が身近なところから実践できる取り組みとして、「マイボトル」持参の普及をめざし、県内在住・在学の大学生、5校の25名が大学毎にそれぞれの特徴や個性を活かしながらか主体的に取り組むこととなりました。

まずは、県内にある「ペットボトルリサイクル工場」を視察。最新の技術の粋を集めた工場を見学し、日本におけるペットボトルリサイクルの現状についてお話を聞きました。学生たちは改めて強い問題意識とこれからの取り組みへのモチベーションを高めました。

## Index

- 1-2 表紙特集 環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業  
～滋賀の大学生たちが取り組む、気候変動対策のための実践的行動～
- 3 その人に聞く 滋賀県近江富士花緑公園 所長 島川 武治さん
- 4 日本ヨシ紀行～ヨシの風景を訪ねて～ 茨城県 霞ヶ浦

- 4 滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク 大町 彩依さん
- 5 2022年度滋賀県地球温暖化防止「COOL CHOICE」ポスター入賞作品決定！
- 6 ベトナム ハロン湾から・おしらせ

## 立命館大学チーム ～大学当局と上手く連携してCO<sub>2</sub>削減で大きな成果～

大学のプラスチックごみ削減の取り組みと連携し、学生全員が「マイボトルを持って登校」するキャンパスライフを目指した。活動の柱は二つ。学内であまり利用されていなかった給水機の利用促進を図るため、周知活動とマイボトルの配布キャンペーンを行った。

二つ目は、広く学生に環境について考える機会を提供するため、標語募集の「アイデアコンペ」を実施するとともに、マイボトル持参のメリットを伝える動画を制作し生協前で終日放映した。大学当局と密接に連携した、学生ならではの爆発力のある取り組みの結果、たった6週間で約8tのCO<sub>2</sub>削減を達成。そして、ラジオ出演によりその成果を発信した。



配布されたマイボトル



周知活動のようす



標語募集ポスター

## 滋賀県立大学チーム ～「USB<sub>o</sub>プロジェクト」で滋賀の明日は明るい!?～

プロジェクト名は「USB<sub>o</sub>」。県立大学の略称「USP」を由来に込められた思いは「明日はマイボトルと一緒に登校しよう!」。学内に給水機がなかったことから、大学事務局への「企画書」の提出から始めた。話し合いの結果、給水機2台の設置が決定。それからは、あの手この手を駆使してひたすら学生へのPR活動を行った。まずは、わかりやすく、かつ刺激的なポスターの掲示。続いて、若者らしくインスタグラムをフル活用。ボトルプレゼントキャンペーンを展開し、マイボトルの普及とペットボトルの削減につなげた。こうした取り組みは新聞上でも大きく取り上げられた。



大学との調整のようす



プロジェクト名に込めた思い

## 成安造形大学チーム ～デザイン力を活かし、企業連携で「マイボトル」普及へ～

学生たちの得意分野である「デザイン」を活かした取り組みを滋賀日産自動車とのタイアップで実施した。まず、「ずっと使いたいと思うマイボトルのデザイン」のコンペを実施し、学生たちの関心を高めた。さらに、連携した滋賀日産の堅田店でエコカーに試乗されたお客様に、学生が手渡しで「マイボトル」をプレゼントし、温暖化対策への理解と実践を訴えた。

また、これと並行して、学生たち一人ひとりが「オリジナルマイボトル」を完成させるワークショップを学内で開催した。デザイン力でマイボトルに愛着を持たせることで、ペットボトルの便利さを上回る価値観が生まれ、人の意識や行動を変える可能性が感じられる取り組みとなった。



採用されたマイボトルデザイン  
(情報デザイン領域3年 薬田結衣さん制作)



インスタグラムの記事より

## さらなる飛躍に向けて

各大学の取り組み内容は、令和4年12月の滋賀県地球温暖化防止活動推進員研修会場で発表されました。推進員の皆さんからは、「大学内での交渉など熱意ある行動の成果」、「データを取り、取り組みの効果が分かり易い」、「さすがデザインで勝負、企業との連携も素晴らしい」など、若者らしい発想、行動力への賛辞の声が多く上がりました。また、学生の一人が考案したペットボトルの人生ゲーム「輪廻転生PET」(本号P.4もご参照ください)を啓発プログラムとして活用しようと、学生、推進員などが楽しく体験しました。

「まなぶ」「つながる」「ひろがる」と進化してきたこの2年間の取り組みを今後さらに進化させ、また、より一層深化させて、若者発の大きなムーブメントが滋賀で起こせるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。



研修会での発表のようす



「輪廻転生PET」を皆さんでプレイ





自然と人との共生をめざして

# その人に 聞く

自然体験型環境教育の第一人者  
滋賀県立近江富士花緑公園 所長

島川 武治 さん

学生時代に抱いた環境保全への熱意を軸に、長年にわたって県内外で人の五感を大事にした環境教育を続けておられる、「しまっち」こと島川さん。今、新たな場所で、これまでの経験やつながりが枝葉を広げて花を咲かせ、ご自身がライフワークの集大成とおっしゃるとおり、さらに増える多くの引き合いを次々に結実させておられます。

滋賀県民の環境意識を高めて底上げするという使命にも真摯に応え、ますます活躍の場を拡大されている島川さんに会いに、ウメや河津桜が咲くある暖かい日に公園を訪ねました。



島川 武治(しまっち)さん

—環境教育一筋に取り組まれている印象ですが、原点はどこにあるのですか。

**島川さん** やはり琵琶湖です。私自身は京都出身ですが、子どもの頃に琵琶湖で泳いだり釣りをしたり楽しい思い出ばかりです。しかし、小学校の環境学習の授業で県内を回っていると、「琵琶湖で泳いだことがない」「汚い！」など声が聞こえてきて、子どもたちから琵琶湖が離れていくのではと辛く感じました。そして環境先進県・滋賀でなくなるではないか、何とかしたいと思ったのが最初です。この20数年、水たまりに小石を投げ続けているような気持ちです。



島川さんの直筆による看板

—「環境先進県でなくなる」とは穏やかではありませんが、今、手ごたえは感じておられますか。

**島川さん** 保育者養成の大学で教鞭をとっていた頃痛感したのが、保育者志望の学生でも生き物を触ることはおろか、生き物への苦手意識が強いことです。子どもが捕まえて見せに来るのに。滋賀で保育者になれば自然と関わることができる、関わる方法を知っていると云えるくらいに、滋賀の保育者を底上げしたい。そうすると、滋賀にいる子どもたちが自然と関わるようになるからという思いで始めた保育者養成は今も私のベースとなっています。

—現在は自然体験の機会がない、接点がないことが問題ですね。

**島川さん** そうなんです。機会作りをいっぱいしていないという思いに動かされてやっています。死ぬ前に「しまっちの尽力もあって琵琶湖がきれいになった」って言われたら嬉しい。山も琵琶湖につながっていること。地球上で多くの生物と一緒につながりあって生きていることを伝えていきたい。日々地球上の生物は絶滅している。この星で開発、破壊を繰り返し、人間よがりに暮らし、痛めていることも原因の一端と考えられます。ならばその責任を取るの人間しかないと思うんです。我々は生物のリーダーではなく、地球で住まわせてもらっている一員という意識をもってプログラムを作っています。



大人気「しまっちと自然とあそぼう」は親子で五感を使う自然体験イベント

—所長に就任されて4年。活動の幅をますます広げられています。公園では財団の下水汚泥コンポストも利用していただいています。

**島川さん** そのような、放っておいたらゴミになるものを活用する、自然に返すという試みを、本気で進めていかないといけませんね。公園でも新たな取り組みとして7月にネイチャースクール(自然学校)をオープン予定です。一般向け、企業向けなどさまざまな体験プログラムを提供します。私の仕事の集大成です。「しまっち、公園が生まれ変わるような提案を待ってたよ」と言われました。県もそれに沿った形で、木育施設としてもここを拠点とすべく今準備を進めています。財団さんにもぜひご協力いただければ。

—ありがとうございます。新たな環境でもどんどん物事を前へ進めておられるんですね。

**島川さん** グループ会社\*の西武ライオンズとは、3月に埼玉県春日部市で行われたSDGs関連イベントでコラボワークショップを出展するなど連携を積極的に進めています。最近では、選手が練習で使って折れた大量のバットを活用できないかと相談を受けました。従来は廃材として捨てるか燃やすかでしたが、素材のアオダモは硬くて密度が高いため燃えにくく処理費用もかかるそうなんです。うちのウッドルームでいくつか試作し、バットを加工したものをホームゲームの来場者に向けて還元できるような企画を共同で検討しています。

野球の勝敗だけではなく、西武ライオンズはSDGsの取り組みも進めていきたい。そこで島川さんにぜひ協力をお願いしたいといった話でした。

—島川さんの哲学や信念によって、今後あちこちで相乗効果もたらされそうです。

**島川さん** なぜ自分がこの年齢でもまだやり続けているのか、またやって欲しいと言ってもらえるのかを考えると、後10年が勝負だと思っています。環境教育を伝えようとしていた当初はそっぽを向かれていましたが、今は普通に受け入れられる。SDGsは、環境教育でずっと地道にやってきた項目ばかりですよ。でもSDGsの良い点は、目標と期限が決まっていること。私はこれからも、自然と共存しながら、次代に引き継げるものを作っていこうと思っています。

—ますますのご活躍を楽しみにしています。



※指定管理者：代表企業 西武造園株式会社



# 日本 ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

## 第15回 かすみ が うち 霞ヶ浦 (茨城県)

関東平野の東、茨城県南部に水を湛える霞ヶ浦は、琵琶湖に次いで全国第2位の面積を持つ湖です。霞ヶ浦の南部には、かつての湖岸の環境を残す「妙岐ノ鼻」と呼ばれるヨシ原があり、広さ52haと関東でも有数の大きさを誇ります。



妙岐ノ鼻のヨシ原

ここはヨシだけではなく、国、県レベルの絶滅危惧種19種類を含む302種類の植物が確認される豊かな植生があり、オオセッカやオオヨシキリ、コジュリン等の野鳥の重要な生息地ともなっています。

さらにこのヨシは現在でも他の植物と一緒に収穫されて、伝統建築の屋根材の一部として出荷されているとのこと。日本三名園の一つで



偕楽園「好文亭」



ある偕楽園(茨城県水戸市)の中にたたずむ、常陸水戸藩第9代藩主、徳川斉昭が設計した「好文亭」の屋根材にも使用されているそうです。

また、霞ヶ浦は琵琶湖同様たくさんの水産資源に恵まれ、ワカサギやシラウオ、テナガエビ、ハゼ、コイ、フナ等が漁獲されています。霞ヶ浦のヨシ原は、このような水産生物の産卵・生育場所として重要であるため、漁業資源の増大や漁場環境の回復を目的として、茨城県は平成12年より水生植物帯(ヨシ帯)の造成に取り組まれています。また、漁業者の方によってヨシ刈りなどのヨシ原を保全する取り組みが行われています。

このように、地域の人々は古くから湖に親しみ、湖の恩恵を受け、大切に守りながら暮らしてきたことが伺えます。また、人々の生活や生き物にとって大切なヨシ原を守る取り組みが、琵琶湖と同じように行われています。

滋賀県の琵琶湖と茨城県の霞ヶ浦、直線距離にしても約400km離れている二つの湖ですが、そこに暮らし、ヨシ原を保全し、その素晴らしい原風景を後世に残していきたいと願う人々の心は、すぐそばにあるような気がします。

## 滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



大町 彩依さん  
大津市在住(大学4年生)

今回は、昨年4月に推進員を委嘱され、「環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業」(本号表紙特集参照)ではデザインやアイデアの力を生かしたコミュニケーションツールを多く制作してくれたこの方です!

私は、大学生のうちに何か課外活動に取り組みたいと思い推進員に応募しました。なので、環境に関する知識はありませんでした。「環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業」に参加して、ペットボトルの使用量を減らし、CO<sub>2</sub>削減に繋げるためのツールとしてペットボトルの人生ゲーム「輪廻転生PET」を制作しました。その際、ペットボトルがどうリサイクルされているのかなどを調べるうちに、だんだん私生活でペットボトルを使うことに罪悪感を感じるようになりました。出かける時もマイボトルを持つようになり、このゲームの制作をきっかけに、環境についての接し方が変化したと感じます。

2023年3月で大学を卒業し、新たな地での暮らしが始まります。今後もより環境と財布のことを考えて、食品ロスや節約など環境にやさしい生活が送れたら良いなと思っています!



製造やリサイクル等ペットボトルを学びながら  
プレイヤー同士が仲良くなれるゲーム

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱され、普及啓発活動を推進されています。



# 2022年度 滋賀県地球温暖化防止 「COOL CHOICE」ポスター入賞作品決定!

表彰式&  
マシンガンズ滝沢秀一さん講演会「ゴミから学ぶ地球温暖化問題」開催

今年度も「COOL CHOICE」ポスターの入賞作品の表彰式と、お笑い芸人として活動しつつ、ゴミの専門家として活躍されているマシンガンズ滝沢秀一さんの講演会を、2022年12月3日(土)に大津市のコラボしが21で開催しました。



## 最優秀賞

滋賀県知事賞

岩崎 麗愛さん  
長浜市立西中学校 2年

このシャワーから滴る水が「地球温暖化は既に現実であり、すぐに行動を変えなければならないのだ。」と改めて気づかせてくれます。

## 優秀賞



中原 駿さん  
豊郷町立日栄小学校 2年



河原 思音さん  
守山市立守山北中学校 3年



北村 隆騎さん  
彦根市立佐和山小学校 6年



山崎 愛さん  
甲良町立甲良中学校 1年



## 特別賞

京セラ賞

山本 碧里さん  
大津市立膳所小学校 5年

左下に小さくですがChallenge of SDGsと地球が描かれていることが残された望みであり、まだまだできることがあることを伝えています。

東京センチュリー賞

久世 麗花さん  
栗東市立葉山東小学校 3年

生活を整えること、健康維持を心がけることは、実はクールチョイスやCO2ネットゼロ社会に繋がることを伝えています。



藤本 歩里さん  
彦根市立佐和山小学校 6年



川端 理愛さん  
長浜市立西中学校 2年



滋賀県地球温暖化防止  
活動推進センター長賞

野村 未来さん  
滋賀県立水口東高等学校 1年

闇夜の本当の美しさが見える時、本当に必要なエネルギーが何かを気付かせてくれる優れた作品だと思います。



八軒 幸永さん  
草津市立老上中学校 1年



北村 恵さん  
愛荘町立秦荘中学校 2年





JICA (国際協力機構) の専門家  
「グリーン成長政策アドバイザー」の活動を紹介します。

「一村一品運動」をご存じでしょうか。1980年に大分県で始まった運動で、各市町村が地域の伝統や歴史風土から育まれた産品を発掘し、創意工夫して付加価値を向上させることにより地域経済の振興を図るプロジェクトで、国内各地に普及しました。

この一村一品運動は、国内にとどまらずJICAをはじめとした日本の支援によりアジア、南米、アフリカ諸国にも広がりました。ベトナムでもOCOP(One Commune One Product)の名称のもと2013年にクアンニン省から始まり、その後

ベトナム全土で展開されています。

クアンニン省ハロン市のスーパーマーケットに行くとOCOPのロゴがついた野菜や食品が販売されています。また、OCOPの専門店やフェアもあり、日本以上にOCOPは浸透し、信頼のブランドとして確立され、今ではクアンニン省にある約500のOCOP商品のうち7割近くがネットで販売されるようになりました。日本の技術支援によるOCOPは産品の品質向上、地産地消の推進、農山村の経済振興に貢献しています。



OCOPフェア



OCOP主力商品の春雨

**お知らせ** ※詳しくは財団HPをご覧ください。

## 湖西浄化センター バラ園が春季一般公開されます

湖西浄化センター(大津市苗鹿)のバラ園は、下水処理の過程で出る汚泥で作った「たい肥」や、センターで浄化した水を活用して育てた90種700株のバラが見事に咲き、毎年春と秋に無料で一般公開されています。

**期間** 5月17日(水)～5月28日(日) **時間** 9:00～16:30(最終入場16時)

また、公開期間中に下水道施設見学会を行います。

**期間** 5月20日(土)～21日(日) **時間** 午前の部 10:30～11:15  
5月27日(土)～28日(日) 午後の部 14:00～14:45

※駐車場が満車の場合は、一時的に入場制限します。



## ヨシ製品を販売しています

刈り取った琵琶湖のヨシを利用した様々な風合いのヨシ紙製品を多数取り揃えています。また、特にキク作りに適したヨシ腐葉土や、水辺の緑化と景観づくりに優れたヨシ苗の育成販売をしています。



## マンホールカードを配布しています

滋賀県のマンホールカードを配布しています。また、滋賀県と各市町(合併前の市町村を含む)のデザインマンホールを展示していますので、ぜひご来館ください。

**配布時間** 9:00～16:30  
(淡海環境プラザの休館日を除く)



▲HPはこちら



## 公益財団法人 淡海環境保全財団 「明日の淡海」

**発行** 公益財団法人 淡海環境保全財団 VOL.41 2023年3月 (年4回発行)  
〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町鼎帆2108番地  
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:info@ohmi.or.jp  
【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】  
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:ondanka@ohmi.or.jp  
【淡海環境プラザ】  
TEL:077-569-5306 FAX:077-569-5334 E-mail:plaza@ohmi.or.jp



- 用紙: 責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
- インキ: 環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷: 有害な廃液を排出しない水なし印刷

### 編集後記

びわ湖毎日マラソンの伝統を受け継ぎ、過日初開催された「びわ湖マラソン2023」。近江大橋のたもとでランナーに声援を送る満開の河津桜。苗木だった樹の成長が見て取れ、時の流れを感じました。